

お隣以上 家族未満



居室は別々でも、食堂やテラスは共用の集合住宅「コレクティブハウス」。少子高齢化が進む中、プライバシーを守りながら、長屋のように幅広い世代が助け合う生活スタイルが注目されている。

「今日のメニューは？」
荒川区東日暮里のコレクティブハウス「かんかん森」。午後7時、80歳代のお年寄りから幼児までが大家族のように集い、リビング

のテーブルを囲んだ。ハンパクやきんぴらゴボウにはしが伸び、笑い声が響く。週3回のコモンミール(食事会)だった。

かんかん森は3年前、老人ホームも入る12階建てビル2、3階部分に開設され、計23世帯36人が暮らす。食事会の準備や共用スペースの清掃は当番制だが、「食事会などの出席は義務ではなく、若い人たちとも違和感なく過ごせて居心地がい

い」と、60歳代の夫婦は言う。2月に入居した一人暮らしの山田幸子さん(81)は今冬、一緒にスキーに行く友人も出来たと、笑顔を見せた。

北欧で発展したコレクティブハウスは、国内では阪神大震災後、高齢者用復興住宅などに採用され、各地に広がっている。

隣人の顔も知らないような風潮が強まる都会でも、「ここでは人とのつながりを感じられる。昔はみんなこうだったけど」と山田さん。リビングの明かりは、夜更けまでもついていた。

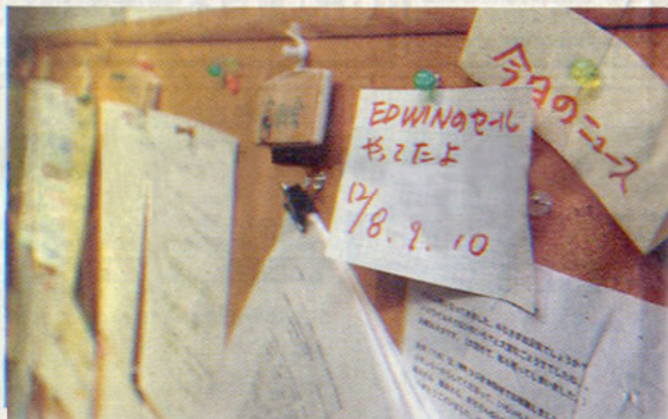
ホッパ
東京
2006
がわいあ



かんかん森の問い合わせは (tomonikurasu@yahoo.co.jp)。

多世代が集まり家族のようにテーブルを囲む

「現代の長屋」集う笑顔



掲示板には連絡事項からちょっとした出来事まで、1日1回は必ず目を通す。食事代などに使われるプリペイド式の「モリ券」は信頼関係の証し



広いリビングに集まるコモンミール。手前のテーブルでは家族が夕食を共にする